

=== T A C S 情報 第2号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和8年6月2日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月上旬の平均気温は、16.6℃（対平年差+0.3℃）と平年並であった。

5月中旬の平均気温は、20.0℃（同+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

5月下旬の平均気温は、21.8℃（同+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

(2) 降水量

5月上旬の降水量は、52.5mm（対平年比120%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の降水量は、1.0mm（同2%）と平年に比べかなり少なかった。

5月下旬の降水量は、35.5mm（同98%）と平年並であった。

(3) 日射量

5月上旬の平均全天日射量は、19.0MJ/m²/日（対平年比107%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の平均全天日射量は、26.5MJ/m²/日（同146%）と平年に比べかなり多かった。

5月下旬の平均全天日射量は、18.4MJ/m²/日（同96%）と平年並であった。

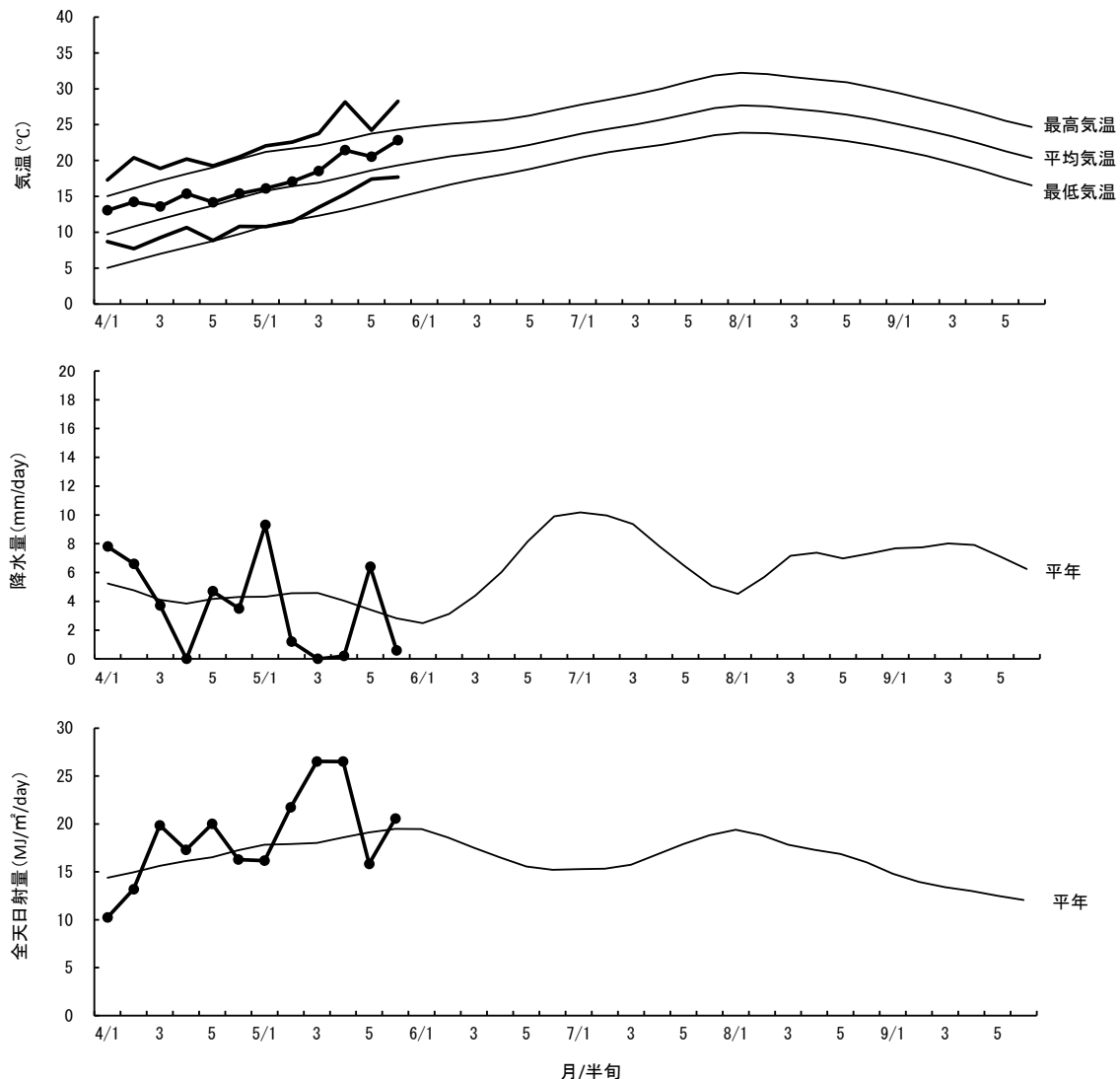


図1 令和8年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（1）富富富

近年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色はやや濃く、葉齢は0.4葉進んでいる。
 葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は並となっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月2日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	5月17日	26.8	9.1	203	5.9	4.2	36.1
R7	5月17日	21.6	5.2	114	5.0	4.0	29.1
近年	5月15日	24.0	6.6	142	5.5	4.1	32.9
前年比・差	0	124	175	179	0.9	0.2	7.0
近年比・差	2	112	137	143	0.4	0.1	3.2

注) 近年：H29～R7の平均

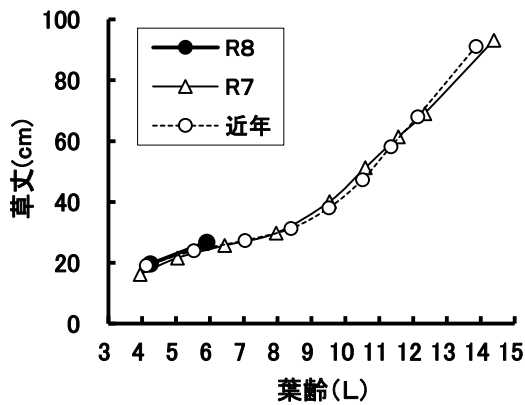


図2 草丈の推移（生観富富富）

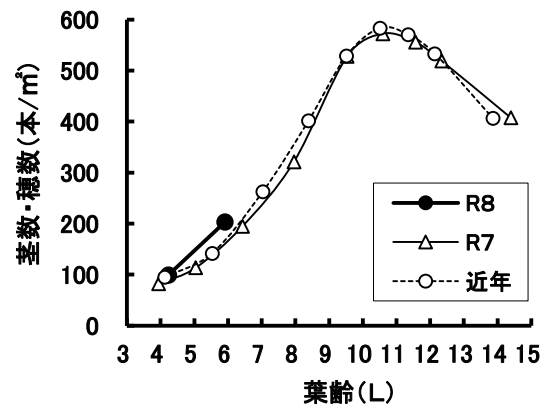


図3 茎数の推移（生観富富富）

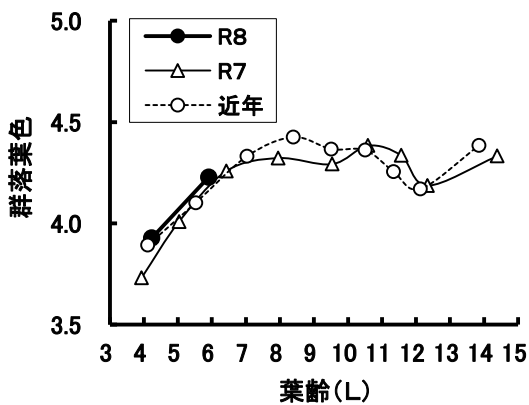


図4 葉色の推移（生観富富富）

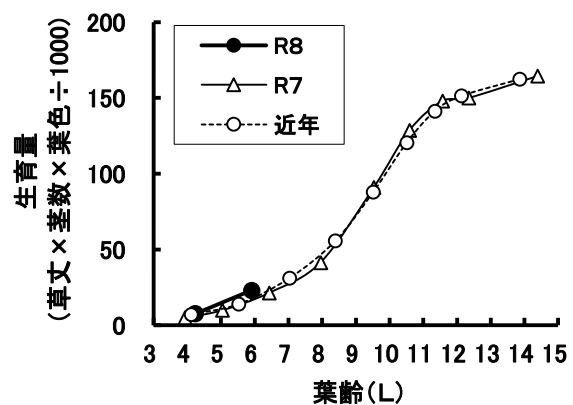


図5 生育量の推移（生観富富富）

(2) コシヒカリ

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は濃く、葉齢は0.8葉進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや多くなっている。

表2 「コシヒカリ」の生育状況（6月2日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	5月13日	30.2	11.4	242	6.6	4.2	36.2
R7	5月13日	26.6	7.5	161	5.8	4.0	29.9
平年	5月14日	26.7	7.3	158	5.8	4.0	32.9
前年比・差	0	113	152	150	0.8	0.2	6.3
平年比・差	-1	113	157	153	0.8	0.2	3.3

注) 平年：H28～R7の平均

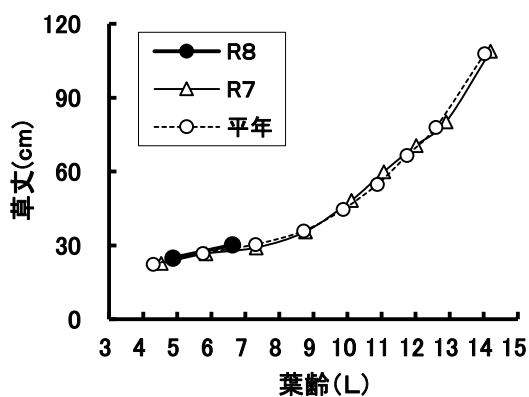


図6 草丈の推移（生観コシヒカリ）

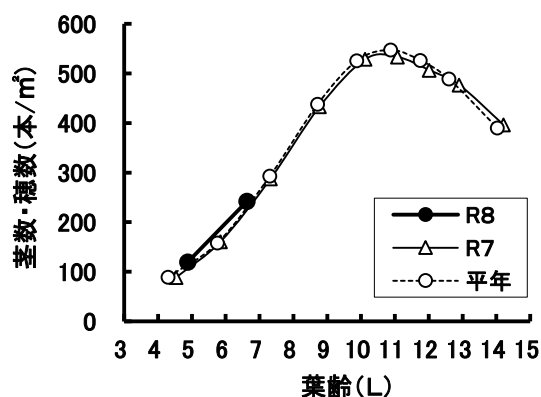


図7 茎数の推移（生観コシヒカリ）

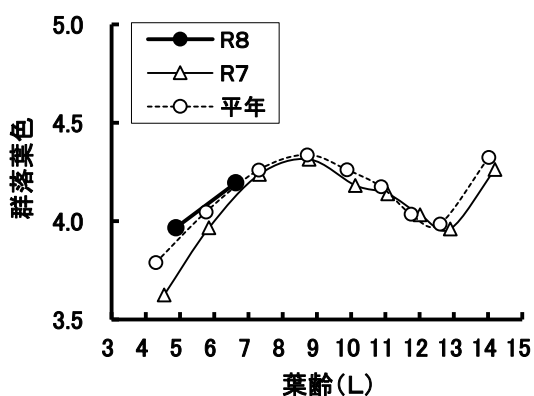


図8 葉色の推移（生観コシヒカリ）

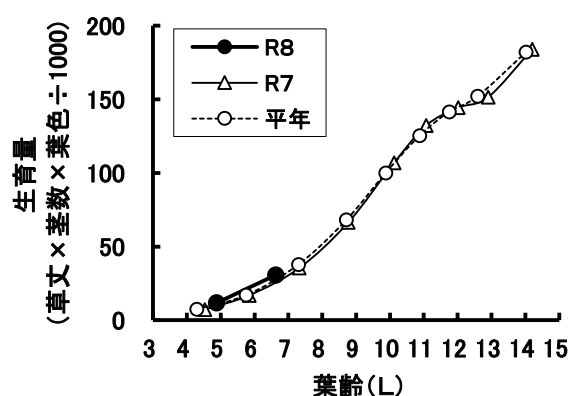


図9 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(3) てんたかく

平年に比べ、草丈はかなり長く、茎数はかなり多く、葉色は並、葉齢は1.2葉進んでいる。
 葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈は長く、茎数はやや多く、葉色は並となっている。

表3 「てんたかく」の生育状況（6月2日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	4月29日	35.1	22.2	464	8.7	4.4	40.5
R7	4月30日	27.6	13.6	280	7.5	4.2	35.7
平年	5月1日	27.1	12.8	274	7.5	4.4	38.8
前年比・差	-1	127	163	166	1.2	0.2	4.8
平年比・差	-2	129	173	169	1.2	0.0	1.7

注) 平年：H28～R7の平均

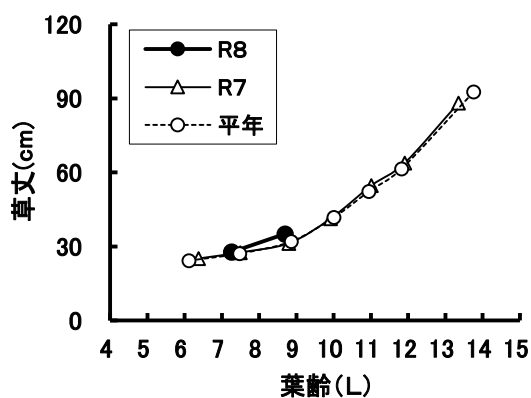


図10 草丈の推移（生観てんたかく）

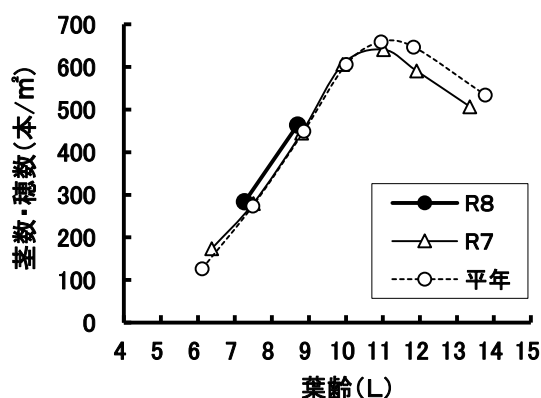


図11 茎数の推移（生観てんたかく）

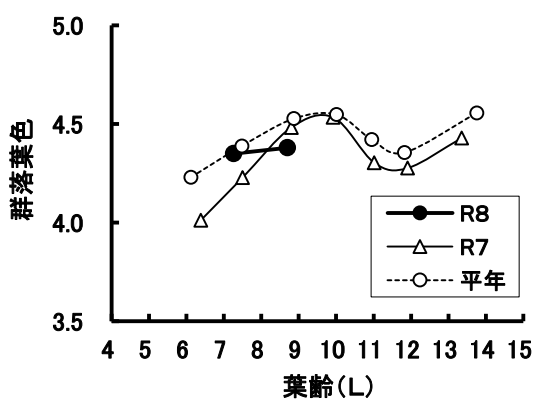


図12 葉色の推移（生観てんたかく）

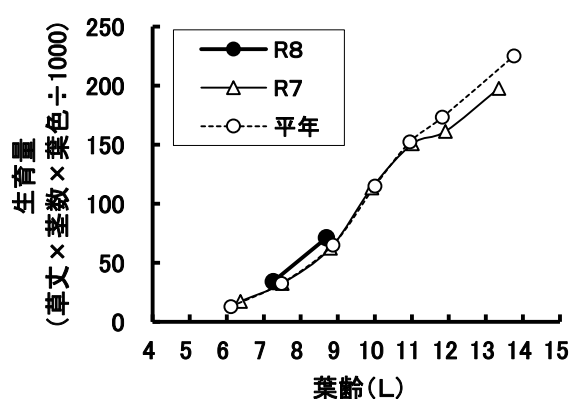


図13 生育量の推移（生観てんたかく）

(4) てんこもり

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色はやや濃く、葉齢は 0.8 葉進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数及び葉色は平年並みとなっている。

表 4 「てんこもり」の生育状況（6月2日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	5月9日	27.0	15.3	308	7.6	4.4	38.9
R7	5月12日	21.2	7.7	153	6.0	4.1	32.5
平年	5月9日	24.4	11.6	220	6.8	4.3	36.7
前年比・差	-3	127	198	202	1.6	0.3	6.4
平年比・差	0	111	132	140	0.8	0.1	2.2

注) 平年：H28～R7の平均

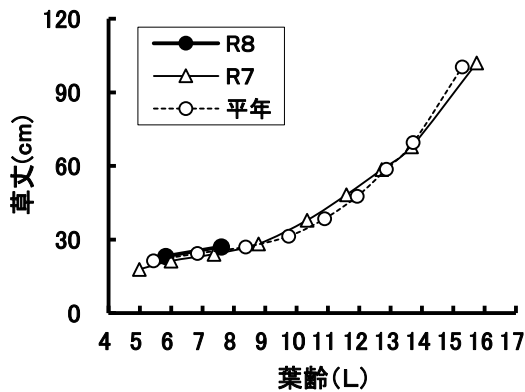


図 14 草丈の推移（生観てんこもり）

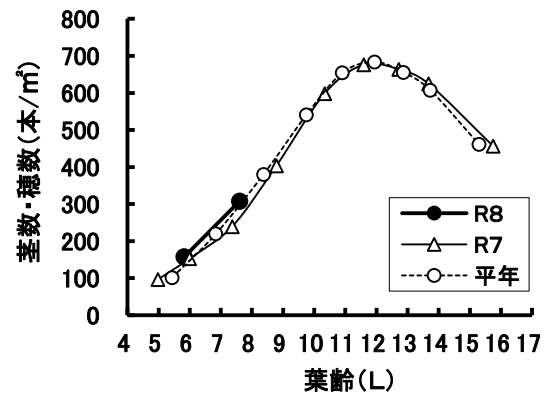


図 15 茎数の推移（生観てんこもり）

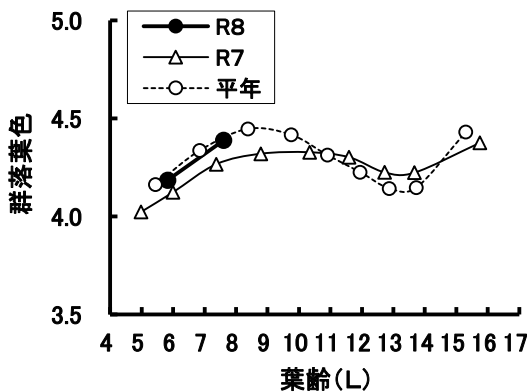


図 16 葉色の推移（生観てんこもり）

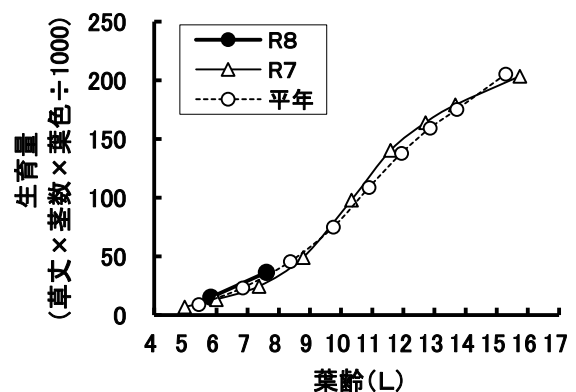


図 17 生育量の推移（生観てんこもり）

3 当面の技術対策

- ・ 茎数が平年に比べかなり多く、葉齢が進んでいることから、中干し前に溝掘りを確実に実施し、平年よりも4日程度早い田植後24日頃に中干しを開始する。
- ・ 「てんたかく」や「てんこもり」等の田植時期の早いほ場では、早急に中干しを開始する。
- ・ 葉色の低下を防ぐため、中干しとその後の間断かん水では落水期間が長くなり過ぎないように注意し、適正な土壌硬度に誘導する。

(1) 早急な溝掘り及び中干しの実施

① 「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場

- ・ 平年に比べかなり茎数が多く、葉齢が進んでいることから、早急に中干しを開始する。
- ・ 中干し後は間断かん水を行い、葉色の急激な低下を防ぐ。

② 「富富富」、「コシヒカリ」

- ・ 今後の水管理を的確に行えるよう、中干し前に溝掘りを確実に実施する。
- ・ 現在、平年に比べ茎数がかなり多く、葉齢が進んでいることから、中干しは平年よりも4日程度早い田植後24日頃に開始し、過剰生育による葉色低下を防止する（表5）。

表5 溝掘りと中干し開始の目安(R8)

田植日 (月/日)	溝掘り期間 (月/日)	中干し開始 (月/日)
5/10	5/31~6/3	6/3
5/15	6/5~6/8	6/8
5/20	6/10~6/13	6/13

(2) 雑草防除

- ・ 5月中下旬の高温により、雑草の発生及び生育が早く、除草剤の散布が遅くなったほ場等で雑草の取りこぼしが懸念される。
- ・ 取りこぼした雑草や後次発生した雑草に対しては、草種や生育状況を確認し、中・後期剤を散布する。使用においては、中干し等の水管理状況に応じて適切な薬剤を選定する。
(参考) 落水状態で使用：クンチャーEW、クンチャーバスME液剤、トドメバスMF液剤、バサゲラン粒剤等
湛水状態で使用：クンチャー1キロ粒剤、レブラス1キロ粒剤、ウィードコア1キロ粒剤等

(3) 適正な水管理による葉色低下の防止

- ・ 中干しは、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回行い、徐々に地耐力を高める(図18)。
- ・ 中干し後は間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ3cm程度の土壌硬度とする。
- ・ 近年、「富富富」においても葉色の低下がみられることから、間断かん水では「コシヒカリ」と同様の水管理を行う(図19)。
- ・ 土壌を乾かし過ぎると葉色が低下するため、中干しや間断かん水では落水期間が長くなり過ぎないようにする(図20)。



図18 中干し終了時点のほ場の状態

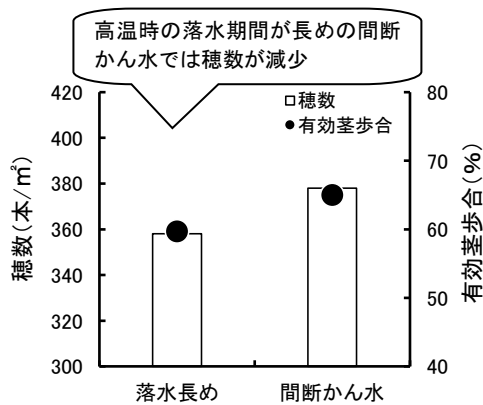


図19 「富富富」における中干し後～幼穂形成期の水管理の違いが穂数及び有効茎歩合に及ぼす影響 (R7農研)

注) 落水長め：入水15日間、落水11日間
 間断かん水：入水18日間、落水8日間

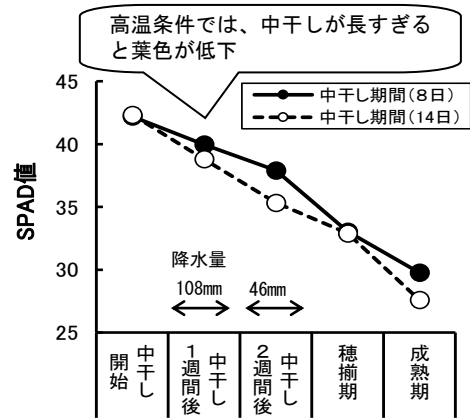


図20 中干し期間を長くした場合の葉色の推移 (R6新川農林振興センター)

注) 沖積砂壤土での結果

(4) 病虫害防除

①斑点米カメムシ類

- ・ 昨年の発生量が多く、春先からの高温により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の発生がかなり多くなっている。
- ・ 今後、高温が予報され、カメムシ類の発生量が多くなると見込まれることから、イネ科雑草が出穂しないように草刈り等、畦畔・雑草地の除草対策を徹底する。

※草刈り運動期間：6月26日(金)～7月5日(日)

一斉草刈り日：6月27日(土)～6月28日(日)

- ・ 本田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の繁殖源となるため、水田内雑草の発生状況に注意し適切な除草対策を行う。
- ・ 麦あとほ場はカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないように管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培する。

②イネミズゾウムシ

- ・ 発生がみられる場合は要防除水準(本田発生盛期の寄生成虫密度 3頭/10株)に基づき防除要否を判定し、速やかに防除する。
- ・ 幼虫の密度を抑えるため、適期に中干しを確実にを行う。

③いもち病

- ・ 本田内の補植用苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除き処分する。
- ・ 箱施薬剤等を施用していない場合は、予防粒剤(抵抗性誘導剤)を6月中旬頃までに散布する。
- ・ BLASTAM情報(農業研究所)を参考に常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

※平年の葉いもちの初発確認日は7月9日(R7:7月2日)

④紋枯病

- ・ 前年多発したほ場等では、出穂3～4週間前の粒剤散布や穂ばらみ期の防除を行う。

※平年の紋枯病の初発確認日は6月27日(R7:7月3日)



BLASTAM 情報は
 こちらから